

1. 千曲坂城クラブの設立と体制

地域の実情に基づき、「自治体の責任としてクラブを立ち上げ、部活動を地域移行」と判断

設立

- 令和5年に「千曲坂城クラブ」を設立し、文化部活動の受け皿となる体制を整備

基本理念

- 「すべての子どもたちにスポーツ・文化芸術活動を保障する」を位置付け。特に**家庭の経済的負担が可能な限り少ないクラブ**を目指す。

運営体制

- 文化コーディネーターを1名配置**し、会場予約や指導者連携、各種調整を円滑に行う
- 千曲市・坂城町教育委員会が連携し、企画・運営・予算管理を担う
- クラブ事務局を教育総務課内に設置し、運営実務（謝金・賛助会員受付など）を担う。
- 首長部局（財政課、ふるさと振興課）との連携を強化**し、予算措置やふるさと納税の導入を推進

2. 部活動地域展開の背景と課題

少子化の進行と存続危機

- 生徒数の減少により、単独チーム編成の困難化や、やりたい部活動が学校でできない状況が発生

教職員の過度な負担

- 平日勤務時間外や休日の指導、未経験種目の指導など、教職員の献身的な努力に大きく依存しており、働き方改革が喫緊の課題

財源確保

- 地域全体で持続可能な活動を構築するため、**保護者の過度な負担を避けた安定的な財源確保**が最大の課題

3. 文化芸術系専門部の活動概況（今年度）

規模

- 会員数 245名、指導者 69名

活動例

- 吹奏楽（地域楽団が全面サポート）、合唱、美術、歴史・科学（古墳館と連携）、総合文化（公民館と連携し6教室開設）など、地域の資源と連携した活動を展開

4. 財源確保と保護者負担軽減に向けた主な成果

多角的なアプローチにより、保護者の費用負担軽減に貢献

賛助会員制度の確立と着実な収入の定着

- 個人（一口千円～）、法人・団体（一口5千円～）を対象に賛助会員制度を立ち上げ
- 広報活動の結果、加入が着実に増加し、目標額を上回る見込み
- **具体的な実績：** 令和6年度 1,022,000円、令和7年度（9月現在）989,000円の賛助金が集まり、重要財源として定着しつつある

ふるさと納税の活用開始

- 持続的な財源確保のため導入を推進
- 令和6年度には長野市の企業から「相応の金額」の寄付があり、運営に大きく貢献

公的施設の利用料 100%減免

- 市町施設および学校施設利用時の利用料を全額減免とする措置を実施
- 会場費という大きな運営コストを削減し、保護者の費用負担軽減に繋がる

5. 持続可能な運営に向けた今後の課題

財源の不安定性

- 現在の運営は国や県からの補助金に大きく支えられており、補助金が無くなった場合の財源確保が依然として大きな課題
- 市町からの負担金の継続、賛助会員やふるさと納税の活用を一層図ることが求められる

会費値上げの検討

- 持続可能な運営のためには「会費の値上げ」は避けられないと考える
- 令和8年度の完全移行を見据え、保護者説明会を実施中
- 年会費 3,000円、月会費（月謝）上限 3,000円を設定予定

学校間移動支援の財政的困難

- 広域的な活動を行う上での生徒の学校間移動（主にタクシー利用）は多額の費用を要する。現状は保護者による送迎が主な手段であり、この負担軽減策が課題

備品・消耗品の財源不足

- 活動内容によっては予算が不足する可能性があり、その場合は新たな集金もやむを得ない